



時枋報幼

題字／枋木県知事 福田富一氏

第161号

令和7年9月20日

一般社団法人 枋木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 枋木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和

■枋幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第72回 枋木県幼稚園 教育研究大会

期日 令和七年八月二十日(水)

会場 ライトキューブ宇都宮・大ホール

参加 千二十四名

大会テーマ

『ひとり一人の「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を』
「社会全体でつむぎ未来へつなぐために」



枋木県知事 福田富一様、枋木県議会議長 池田忠様、宇都宮市こども部長 高橋一博様、枋木県教育委員会教育次長 大高栄男様、枋木県保健福祉部こども政策課長 齋藤成宏様、枋木県幼児教育センター長 前原由紀様、枋木県幼稚園連合会顧問 石嶋勇先生のご臨席を賜り、盛大に開催された。枋木県幼稚園連合会 船田弘和理事長の大会挨拶では、昨年度行われた全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修大会開催にあたり、一致協力実

施団体としての功績が認められ、全日本私立幼稚園連合会尾上正史会長より感謝状が授与された。報告があった。

最後に、多くの保育場面映像が流れる中、作新学院幼稚園の六名の先生方による素晴らしい「ハーモニー」とともに、「先生」を斉唱した。

表彰

幼稚園教育振興功労者

認定こども園育成館幼稚園

理事長・園長 荒居 養雄先生

永年勤続表彰者

五十年表彰者 三名

四十年表彰者 九名

三十年表彰者 十八名

二十年表彰者 四十七名

十年表彰者 七十七名

永年勤続表彰者の代表者は、認定こども園金井台幼稚園山崎直子先生が務めた。



枋木県議会議長 池田忠 様



枋木県知事 福田富一 様

講演会

テーマ 「乳児保育・教育の質について考える」

講師 学習院大学文学部教育学科教授 東京大学名誉教授 秋田 喜代美氏

令和四年に「こども基本法」が制定されたが、こどもの権利を守るため、保育者に必要なことは、こどもの「声」を聴く(表情やまなざしを含む) こどもが何にどのようなまなざしを向け、そこにはどのような思いがあるかを感知することである。



秋田 喜代美氏

お母さんがこどもを妊娠してから小学校一年生までが約百か月であるが、長い人生において、人生の基盤を築く、はじめの重要な時期であることから、「はじめの百か月」と名付けられている。幼児期のこどもは、様々な人や自然、絵本などの環境と出会い、興味・関心に応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」しようとする。こどもが不安なときなどに身近な大人が寄り添うことや、安心感をもたらす経験をくり返すことが、「安心」という土台を築く。このように、幼児期の育ちには「安心」と「挑戦」の繰り返しが必要である。

秋田先生からは、保育の当たり前を見直したり、物による教育(環境を通しての教育を深める)ことの大切さを学んだ。具体的な物による教育事例として、滑車やコンテナなど本来は遊具ではない物を遊具にする、遊具を作るなどの映像を提供いただいた。保育業者の遊具とは違い、こどもの活動に自由感を与えていた。こどもがそれらを道具として扱うことで、手と心を働かせていたのがよく理解できた。

また、絵本を活用することで、こどものファンタジー世界を豊かに広げることができると、もっと絵本の活用について考えてみたいのではないかと提案があった。保育園では、絵本をテーマ

にした研修は少ないとのことである。事例として、こどもたちが話し合い、どの絵本の劇遊びをするかを決め、配役や大道具、小道具作り、劇の発表やその後の展開について、映像とともに提供いただいた。このような事例を見せていただいたことで、当たり前を見直す上で多くの刺激を受けた。

公演会

テーマ 「今日がはじめの一步」

講師 新沢 としひこ氏

シンガーソングライター、作詞家、作曲家、絵本作家など多彩な活動をする新沢氏の公演は、歌のほか踊りや手拍子などを取り入れ、会場一体となった参加型の楽しいコンサートであった。

歌に手拍子を入れると、難しいリズムを自然にとることができた。たくさんタッチしたり、コミニケーションを取り合うことで音楽がより楽しくなる。コロナ禍ではできなかった触れ合うことが、今は音楽を通してできるようになった。

子どもたちにとっては、歌うことで自分の気持ちを表現したり、踊ることで構えない自然な姿を見せられる。みんなでするポーズには恥ずかしさがなく、思いっきり自分を表現できる。音楽には心を前に、未来にはじめの一步を踏み出す力を与えてくれる。



第72回栃木県幼稚園教育研究大会 分科会

令和7年8月21日（木）から22日（金）の二日間。ライトキューブ宇都宮とホテルニューイタヤにて14の分科会が開催された。コーディネーターや助言者、話題提起者による、きめ細やかな準備と進行により、参加した先生方が自己の課題と向き合い、保育の新たな道しるべを見つけるような、貴重な二日間となった。



子どもの安全を守る保育と環境

1
分科会

助言者 望月 文代(育英大学・准教授)

コーディネーター 宇津木しのぶ(認定こども園野木幼稚園・主幹保育教諭)



子どもの育ちと言葉 ～「マジでヤバイ」を使う子どもたち～

2
分科会

助言者 矢萩 恭子(和洋女子大学・教授)

コーディネーター 篠原真木子(認定こども園茂木愛泉幼稚園・園長)



魅力ある遊びで育む子どもの心と体 ～戸外遊びや自然活動を通して～

3
分科会

助言者 長谷部せり(國學院大學栃木短期大学・准教授)

コーディネーター 守屋 和美(認定こども園仁神堂幼稚園・主幹教諭)



自然遊びを通して子どもの心を育む

4
分科会

助言者 真山 高士(NPO 法人那須高原自然学校・理事長)

コーディネーター 大久保智子(認定こども園やすづか幼稚園・副園長)



分科会	話題提起者	日程
1	野 城 友 希 (認定こども園生井ゆりか幼稚園・保育教諭) 須 見 英利子 (認定こども園栗の実・主幹保育教諭)	8/21
2	石 下 彩 香 (認定こども園たから幼稚園・保育教諭) 細 谷 彩 花 (認定こども園七井幼稚園・保育教諭)	8/22
3	糸 井 愛 実 (認定こども園いすみ幼稚園・保育教諭) 大 貫 み か (認定こども園鹿沼みどり幼稚園・保育教諭)	8/22
4	堀 田 友梨花 (認定こども園ひらかわ幼稚園・保育教諭) 菊 地 友 里 (認定こども園栃木幼稚園・保育教諭)	8/21
5	阿 見 聖 美 (すぎのこ幼稚園認定こども園・保育教諭) 小 林 美 穂 (認定こども園西那須野幼稚園・保育教諭)	8/21
6		8/22
7	大和田 真 由 (認定こども園のぶ幼稚園・保育教諭) 松 山 彩 香 (認定こども園茂木愛泉幼稚園・保育教諭)	8/21
8	高 橋 弘 子 (認定こども園さくらが丘・保育教諭) 落 合 桃 子 (認定しらゆりこども園・保育教諭)	8/22
9	小 暮 直 子 (認定こども園旗川幼稚園・保育教諭) 山 口 明 美 (認定こども園こぼと・教務主任)	8/21
10	飯 塚 理 絵 (認定こども園陽南幼稚園・保育教諭) 巻 嶋 優 花 (松ヶ峰幼稚園認定こども園・保育教諭)	8/22
11	佐 藤 明 子 (認定うつのみやこども園東うつのみや保育園・主幹保育教諭) 渡 邊 絢 (ひじり認定こども園・主幹保育教諭)	8/21
12	篠 崎 紗 希 (認定こども園足利幼稚園・保育教諭) 川 上 千 明 (足利さくら幼稚園・教諭)	8/22
13	荒 木 玲 音 (認定こども園せんだん幼稚園・総務) 船 田 恵 弘 (認定こども園おおみや幼児教育センター・主事)	8/22
14	大 森 恵 弥 (認定こども園烏山みどり幼稚園・保育教諭) 福 本 光 夫 (認定こども園西那須野幼稚園・園長)	8/21

園行事の取組と子どもの育ち

10
分科会

助言者 市川 舞(宇都宮共和大学・教授)
コーディネーター 高根沢伸友(宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園・副園長)



「豊かな保育」を考える ～子どもがより豊かな世界に向かうために～

5
分科会

助言者 神長美津子(大阪総合保育大学・特任教授)
コーディネーター 栗田 英子(認定こども園黒羽幼稚園・園長)



乳児保育の記録と計画 ～子どもの今を明日に繋げる記録・計画～

11
分科会

助言者 川辺 尚子(保育のデザイン研究所・上席研究員)
コーディネーター 石戸奈緒美(みふみ認定こども園・副園長)



(設置者・園長・リーダー向け講座) 「はじめの100か月の育ちビジョン」の理解

6
分科会

助言者 本間 実咲(こども家庭庁成育局成育基盤企画課・指針係長)
コーディネーター 大嶋 裕(認定こども園今市中央幼稚園・理事長)



園内研修の意義を知り、実践する ～みんなで学び、試して、もっと楽しく!～

12
分科会

助言者 松山 寛(帝京科学大学・講師)
コーディネーター 大塚 久子(認定こども園東光寺幼稚園・園長)



配慮の必要な幼児の理解と支援を考える

7
分科会

助言者 土沢 薫(元 宇都宮共和大学・教授)
コーディネーター 佐々木桐子(萌丘幼稚園認定こども園・園長)



保護者との連携 ～園の様子を伝えよう～

13
分科会

助言者 田澤 里喜(玉川大学教育学部乳幼児発達学科・教授)
 (東一の江こども園・園長)
コーディネーター 花岡 宏樹(認定こども園梅ヶ原幼稚園・園長)



0・1・2歳児の写真等を活用した保育記録を基 に語り合う

8
分科会

助言者 穴戸 良子(作新学院大学女子短期大学部・准教授)
コーディネーター 山崎 英明(認定こども園釜井台幼稚園・園長)



特別な配慮を要する子への支援と 関係機関との連携

14
分科会

助言者 矢野 善教(作新学院大学女子短期大学部・准教授)
コーディネーター 岡本 純世(認定こども園すみれ幼稚園・園長)



感覚の育ちを誘う歌遊び

9
分科会

助言者 新井 祐子(宇都宮共和大学・准教授)
コーディネーター 大島絵理子(呑竜クローバー保育園・施設長)





とちぎの幼稚園・認定こども園等 合同就職説明会

期 日 令和七年六月二十九日(日)
会 場 マロニエ・プラザ
参加状況 参加園数 百五十園
参加者数 二百一十一名

栃木県幼稚園連合会が主催する合同就職説明会が、昨年に引き続きマロニエ・プラザで開催された。本説明会は、幼稚園教諭や保育教諭を志す学生を対象としたものであり、県内の幼稚園が一堂に会し、それぞれの園が持つ魅力や教育理念を学生に直接伝えることのできる貴重な機会となっている。



会場内の各ブースでは、熱心に説明に耳を傾け、時折メモを取りながら質問を投げかける学生の姿が多く見られ、真剣に進路を見据える姿勢が随所に感じられた。九十分という限られた時間ではあったものの、学生にとっては進路選択に向けた具体的な情報を得られる貴重な場であり、自らの価値観や希望に合った園を見つけるための大きな手がかりとなったに違いない。



一方、幼稚園教諭や保育教諭の成り手不足は年々深刻さを増している。少子化の進行や労働環境の課題、待遇面への不安が若い世代の進路選択

に大きく影響しており、保育の道を志す学生自体が減少しているのが現状である。さらに近年では、保育者を養成する学校の閉校といった事例も見られるようになり、幼児教育業界を取り巻く環境の厳しさが一層際立っている。



本説明会でも、参加学生の数が年々減少しているという現実は無視できず、今後は説明会の在り方そのものを見直していく必要性が高まっていると感じられる。対面形式だけでなく、オンラインでの説明会の実施や動画による園紹介の配信、さらには学生と園が双方向でコミュニケーションを取れるような仕組みを取り入れるなど、多様なアプローチを模索していくことが求められている。

幼児教育は、子どもたちの人格形成の基盤を築く極めて重要な分野である。そうした未来を担う子どもたちを育てる保育者の確保と育成は、今まさに喫緊の課題である。今後本説明会が、学生と園との大切な「出会いの場」として機能し続け、将来の保育を担う人材が安心してこの職業を選べるよう、栃木県幼稚園連合会としても新たな取り組みを模索し、より充実した内容となるよう努めていきたい。

最後に、本説明会の開催にあたり、事前準備から当日の運営・進行に至るまで多大なるご尽力をいただいた総務委員の先生方、そして事務局の皆様、心より感謝申し上げます。

研修会だより

設置者・園長研修会

期 日 令和七年六月二十七日(金)
会 場 栃木県総合文化センター
(特別会議室)

参加 九十三名

内容

一、「行政説明」
(二)こども誰でも通園制度(乳児等通園支援事業)について
担当官 栃木県保健福祉部
こども政策課

リモモ

全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらず形での支援を強化するため、現行の幼児教育・保育給付に加え、月十時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付となるのがこども誰でも通園制度である。



制度の意義

・家族以外の人と関わる機会が増える。
・保護者の負担感軽減につながる。
・子どもと保護者の関係性に良い効果を与える。

令和六年度は試行的段階、令和七年度は法律で制度化、令和八年度からは本格実施となる。また、総合支援システムを使用し、利用のしやすさや管理のしやすい点がポイントである。

(二) 人事院勧告による保育士等の

処遇改善等について
担当官 栃木県保健福祉部
こども政策課

主任 越場 康介氏

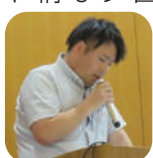
令和七年度以降の取組の方向性は、民間給与動向等を踏まえた処遇改善に取り組みとともに、処遇改善等加算を事務手続きの簡素化等の観点から現行の三つの加算を一本化する。また、ここdeサーチにより各保育所等のモデル賃金や人件費比率等の見える化に取り組み、保育士等の処遇の改善を進める。



(三)ここdeサーチによる経営情報の見える化について
担当官 栃木県保健福祉部
こども政策課

主任 相澤 一樹氏

施設・事業者の経営情報の公表やデータベース化等の継続的な見える化の仕組みの構築を進め、処遇改善や配置改善等の検証を踏まえた公定価格の改善を図ることを主たる目的とする。



新たな制度の施行期日は令和七年四月一日で、経営情報等の報告期限は事業年度終了後五月以内となる。

(四) 虐待に関する通報義務について
担当官 栃木県保健福祉部
こども政策課

主査 檜山 泰知氏

保育所等の職員による虐待について、児童福祉法等を改正し、児童養護施設等の職員による虐待と同様、次の



規定を設ける。

- ・虐待を受けたと思われる児童を発見したものの通報義務
- ・都道府県等による事実確認や児童の安全な生活環境を確保するために必要な措置
- ・都道府県等が行った措置に対する児童福祉審議会等による意見
- ・都道府県による虐待の状況等の公表
- ・国による調査研究 等

二、「求められる保育とは」不適切保育にならないためには」

講師 NPO法人だいじょうぶが

理事長 畠山 由美氏

二〇一七年に児童福祉法が改正され「子どもが権利の主体である」という大きな視点の転換が行われた。国や地方自治体の責務として子どもの家庭養育優先の原則が明記された。



二〇二三年には、子どもの権利を守るための「こども基本法」が定められたが、そもそも幼稚園は子どもの権利が守られる場所である。

「次世代を担う子どもたちが、暴力の無い幸せな社会を築いていけるように」と講演は締めくくられた。

第三十八回全日本私立幼稚園連合会 関東地区教員研修茨城大会

期日 令和七年八月四日(月)

八月五日(火)

会場 つくば国際会議場他

大会テーマ

「質の高い幼児教育を社会全体でつむぎ未来へつなぐために」

関東地区教員研修大会には、約千三百四十一名が参加し、



二日間わたって、つくば国際会議場等で開催された。

開会式では、全日本私立幼稚園連合会尾上正史会長、関連の各団体長および来賓各位より、挨拶とご祝辞をいただいた。

共通して「子どもにとつての幸せとは」「愛着形成の重要性および現出する問題と遠因」「保育者の学びの質の向上」に触れられ、始まる研修への、目的や心構えを新たにす機会となった。また、永年勤続表彰や、前年度開催の功を称え、栃木県幼稚園連合会 船田弘和理事長には感謝状の贈呈がなされた。

基調講演は、東京大学大学院教育学研究科教授・前同附属発達保育実践政策学センター長 遠藤 俊彦氏による「『アタッチメントが拓く子どもの未来』」



「『安心と挑戦の循環』を支え直すことの大切さ」であった。子どもの一番近くにいる大人との安定したアタッチメント(フキンシップと混同しない)は、生涯の心の土台(基本的な自己信頼と他者信頼)の形成に影響する。心身の発達や教育にも影響を及ぼすが、家庭外の大人が乳幼児期に無条件に受け入れて関わるなど、アタッチメントを経験し直すことで、その補償が可能で



と、その補償が可能で

あると、縦断研究等の裏付けを用い話された。大人が「安全な避難所」目つ「安心の基地」になると、子どもは、安心と挑戦・探索を繰り返す。輪を広げながら自立に向かおうとする。それを支えていく大人の役割や在り方についても詳細に教示くださった。

ウクライナ出身のグリブ・トルマチョブ氏によるチェロコンサートは、気丈で穏やかな中にも、祖国への思いや平和への願いが、深い音色とともに伝わり、参加者それぞれの頬に自然と溢れつたものがあつた。

二日目は、栃木県担当の第八フォーラム「保護者・地域との連携」ははじめ十四のフォーラムが行われた。



第一回「保育テクニカル講座」

期日 令和七年六月二十三日(月)

会場 ホテルニューイタヤ(桜の間)

参加 百六名

テーマ 「心ふれあう表現遊び『パ

ネルシアターとタオルおそび』」

講師

淑徳大学教授
パネルシアター作家

松家 まきこ氏

松家先生の澄み渡る歌声とゆつたりとした雰囲気のおかげで、数多くのパネルシアターとタオル遊びをご教示いただいた。参加者も松家先生のテンポの良さと魅力ある遊びに乗せられ、自然と身体も表



情も動き出し、合間に先生が話された、イメージの共有や、言葉はなくとも応答・表現し合うことの嬉しさ、そして心がつながって

いくということを経験できた様子であつた。タオルは身近で扱いやすい。手仕事遊び、見立て遊び、イメージを広げることできる。パネルシアターは「準備、覚える、演じる」が頭を過るが、子どもたちとやり取りしながらイメージを共有し、応答して遊ぶなど、「コミュニケーションツールと捉えると、応用のし易さが見えてくる。

ふれあい遊びは「人とかかわる力」を育む第一歩とのこと、ツールを紹介し、一人ひとりが思いのままに発する生活体験や心の表現を丁寧に見取り、受けとめていきたいものである。



第二回「保育テクニカル講座」

期日 令和七年七月八日(火)

会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

参加 九十八名

内容 「自然物を使って遊ぶ、楽しむことから子ども理解につなげよう」

講師

宇都宮共和大学
子ども生活学部

桂木 奈巳氏

今回のテクニカル講座は、「植物や虫などの様々な自然物を使って遊ぶ『自然体験』を通して子どもを理解しよう。」をテーマに進められ、保育者が保育の現場です



ぐに実践できるアイデアがいっぱいの内容であった。

研修では、自然体験を幼児期にたくさん経験した子どもと、経験していない子どもでは、自然体験をたくさん経験した子どもの方が、「自律性」・「積極性」・「協調性」が高まるという統計が紹介され、情操教育における自然体験の有益性を学んだ。

石や枝などのちょっとした自然物でも自然界では何かしらの役割があり、その役割を考えるだけでも学びがある。また、自然体験を保育で実践する際に重要なことは、自然とのふれあいは保育者が子どもに押し付けるものではなく、子どもの好奇心を刺激するものとふれ会える機会をできるだけ多く作ることである。自然体験では、発見の中から好奇心が育ち、人の思考の基礎が作られる。保育者も常に五感を働かせていなければならぬことを学んだ。

最後に、「子どもの心身の発達には自然とのふれあいが大事であり、自然を大切に思う大人になってもういた。保育の仕事は、そのための種まきである。」という思いが伝えられ講座は終了となった。



新採研(宿泊研修) 代替研修 集合研修

期日 令和七年八月八日(金)
会場 栃木県総合文化センター
(サブホール、各会議室)

参加

百四十一名
新採研の集合研修として、県総合文化センターにて行われた。当日は、必修、選択活動各二時間ずつを午前、午後に分かれて受講する形式だ。

必修活動は「人と繋がる遊び術」をテーマに、谷口國博(たにぞう)氏を講師に、選択活動は青年部委員が実行委員となり、

- ・「〇・一・二歳児の保育」
- ・「みんながワクワククレクリエーション・うたあそび」
- ・「子どもと考える遊び」
- ・「造形遊び」

の四つの中から一つ、受講者が自分の担当学年や興味がある内容を選択し受講する。選択活動の内容も、実行委員が各々得意なことや、新採の先生に伝えたい、学んでもらいたいことなどを持ち寄り、四月から検討をかさねてきた。

当日は暑い最中にも関わらず、各活動に精力的に参加していた。必修であるたにぞう氏の活動では、受講者自身が小さい頃にテレビで見たことがある楽曲もあり、楽しく参加していた。特に「バスにのって」や「パンパ・ポン！」が始まると、弾けるような笑顔で、受講者どうし和気あいあいと身体を動かしていた。社会人になって早四か月、先生としていつもは子どもたちの前で一生懸命頑張っているが、今日は子どもの気持ちに



なって参加できたのか、実に楽しそうだった。選択活動においても、受講者は積極的に参加していた。始まりこそ少し重苦しい感じだったが、実行委員の先生方はそんな空気が和らぐよう、アイスブレイクや柔らかい口調で新採の先生たちが打ち解けしつかり学べるような雰囲気作りをし、次第に主体的に参加していた。



スクールバス安全運転研修会

期日 令和七年八月二十二日(金)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百三十一名
内容 「スクールバスの交通安全教育」
講師 (株)ジャパン・リリーフ 運行品質部 安全送迎サポート課 課長 吉田 努氏

本研修は、園児送迎業務に従事する職員が交通安全に関する知識を再確認し、事故防止と園児の安全確保を徹底することを目的として実施された。特に近年問題と

なっている園バス内での園児置き去り事故や交通事故を未然に防止するため、安全管理体制の強化を図ることを研修の重点としていた。

全国における交通事故事例の紹介と原因分析・幼児送迎バスに関する法令・安全基準の再確認・運転者としての責任と安全意識の保持について学んだ。今回のスクールバス交通安全教育を受講し、普段の運行の中では気付きにくい危険や、自分自身の運転の癖について改めて考えるきっかけとなった。特に、子どもは大人の予測を超えた行動をとることが多く、乗降時に突然動き出すことや、バスの周囲に入り込んでしまう危険性があるという具体的な事例を聞き、大変印象に残った。また、車内事故を防ぐために座席での正しい姿勢を指導することの重要性も再確認した。

さらに、講習を通して「安全は運転者一人の努力だけでは守れない」という点を強く感じた。運転手・添乗職員との連携があつて初めて子どもたちの安全が守られるということに再認識し、特に緊急時の対応については、日頃からコミュニケーションしておくことが、いざという時に落ち着いた行動をとるために不可欠であると学んだ。

今回の研修は三年間のまとめの研修でもある。今まで学んだことを今後の業務にしっかりと活かし、日々の安全点検や確認を怠らず、子どもたちが安心して登降できるよう責任を持って取り組んでいきたい。





新規採用幼稚園教諭等研修

(第二日)

六月二十日及び六月二十七日に、宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園で実施しました。

三歳児、四歳児、五歳児の保育観察を行い、保育の名場面を捉え、共有しました。その後、環境の構成や保育者の援助において、気付いたことや大切にしたいことを協議しました。



新採者からは、「子どもたちが安心して自分の思いを発揮できる環境や主体的に遊べる環境が大切だと感じた」「子どもをすることを肯定的に捉え、前向きに保育をしていきたい」などの感想がありました。

(第三日)

七月二十三日に総合教育センターで実施しました。

午前中は、人権教育に関する講話、幼児理解・園児の理解から始まる保育についての講話・演習を行いました。

午後は、グループに分かれ、十一名の指導助言者の下で、幼児・園児を理解するために



大切にしたいことについて考えを深める演習を行いました。

指導助言者が新採者に寄り添いながら、経験に基づいた具体的な助言をしてくださったことで、学びを深めることができました。

新採者からは、「その子の個性や気持ちに寄り添いながら日々の保育を行い、子ども一人一人を大切にしていきたい」「他の先生方と話し合うことで自分も持っていなかった視点や考えを知ることができた」などの感想がありました。

研修を通して学んだことを、実際の保育の中で生かしていけることを期待しています。



教育課程研究集会「幼児教育」

第一日

六月十九日に実施しました。今年度も研究主題は、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」です。

午前中は、中央区立久松幼稚園園長 川越裕子先生より、リモートで協議主題や協議の視点に触れながら、中央区での実践についての講話をいただきました。

午後は、グループに分かれ、それぞれが自園で取り組む研究テーマについてアイデアを共有し、研究を進める見通しがもてるよう、協議の視点を基に情報交換や協議を行いました。

受講者からは、「架け橋期は年長

と小一の担任だけの関わりではない。〇歳児から五歳児の担任が架け橋期の充実や遊びが学びになっているということを認識していけるようにしていきたい」「幼稚園側から積極的にアプローチをして、小学校の先生方にも園に来ていただき、互いの子ども理解に繋げていけたらと思った」などの感想がありました。



第二日には、それぞれが取り組んだ研究テーマの具体的な実践について発表し合い、考察を深めていく予定です。

中堅幼稚園教諭等資質向上研修第二日 保育所保育士研修「中堅」

七月二日に、保育所保育士研修（中堅）と合同で実施しました。

午前中は、園における組織マネジメントについての講話・演習を行いました。

午後は、「子ども主体の保育を考えよう」の演習後、学習院大学教授 秋田喜代美先生より「子ども主体の保育」質の高い保育の実現のために」と題して講話をいただきました。

受講者からは、「グループワークでは、保育園の方とも話ができて、互いのことが知れてよかった」「研修を通して、園内での自分



の立ち位置を改めて確認することができた」「自身の立場を生かした人材育成や、園全体の体制づくりに関わっていききたい」「子どももワクワク、保育者もワクワクする保育を目指していきたい」「子ども主体の保育について自園でできることを園内研修で提案していきたい」などの感想がありました。

施設類型の別なく協議等を行うことで、それぞれの園での取組を知るとともに、それぞれの思いを共有しながらミドルリーダーとしての役割について考えを深め、マネジメントに取り組む意欲を高めていました。



★これからの研修★

合同研修「幼小」

十一月二十五日（火）
新規採用幼稚園教諭等研修

十二月二十四日（水）＊第九日
幼稚園等教職五年目研修

一月二十一日（水）＊第三日
中堅幼稚園教諭等資質向上研修

九月二十五日（木）＊第五日
一月七日（水）＊第六日

幼児期の特別支援教育研修

一月十五日（木）＊第一日
幼稚園・こども園・保育所主任等研修

一月二十七日（火）＊第二日

詳細は「幼児教育センター研修案内」で御確認ください。

JAMmer





こども政策課だより

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書

●提出期限 十一月上旬（予定）

※令和七年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）については、十月初旬に事業計画書の提出をお願いする予定です。

その後、十月下旬を目途に内定通知を送付いたします。

交付申請書の提出に当たっては、内定通知の記載に基づき提出願います。

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

（一） 特別支援教育

●提出書類

ア 対象園児就園状況調査書

イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

ウ 対象園児である旨の判定調査書

●提出期限 十一月初旬（予定）

※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれかが必要となります。

専門医の診断書等の記載内容については、参考様式を作成し、その旨通知しますのでご確認ください。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、ご留意願います。

（二） 子育てランド事業

●提出書類

ア 子育てランド事業実施計画書

イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月上旬（予定）

（三） わんぱく保育推進事業

●提出書類

ア わんぱく保育推進事業実施計画書

イ 預かり保育実施記録

ウ 保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月上旬（予定）

※わんぱく保育推進事業については一号認定子どもが対象となります。新制度へ移行した幼稚園又は幼保連携型認定こども園において一号認定子どもを預かっていない時間は算定から除くこととなりますのでご留意願います。

各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上期限までに提出願います。

令和七年十月～十二月までの事業予定

10月15日	保育テクニカル講座
10月23日	※幼小接続推進者研修
10月27日 ～28日	全日私幼 設置者園長研修全国大会（茨城県）
10月31日	幼稚園教育振興の集い（宇都宮市）
11月6日 ～7日	全日私幼 関東地区代表者協議会（神奈川県）
11月13日	設置者園長研修会
11月25日	※ 合同研修（幼小）
11月28日	0・1・2歳児研修
12月4日	資質向上研修（リーダーの重要性）
12月8日	保育セオリー講座
12月24日	⑨新採研（集合研修） ※は幼児教育センター事業

弔事

●野木町 認定こども園野木幼稚園
元理事長 牧川 成子 先生

令和七年六月二十一日 逝去

●益子町 認定こども園たから幼稚園
理事長 馬場 章岳 先生

令和七年九月四日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

ふとみあげると「ん」

ある休日、5歳の息子とそらを見上げ「雲だね」とふわふわ浮かぶ雲に合わせて揺れてみる。

「あれ、うさぎに見える。いや、違う猫だ。」にやー。笑い。「あつー隣はテイルだ！」

ある平日、4歳の在園児とふと聞てくる音に耳を澄ませ、一緒に空を見上げ「飛行機の音だ、飛行機！」「どこに行くんだろっ？」「うーん、海？山？」「飛行機で海に入るのかな？」「えーそのまっ？」笑い。ふとした目の前の出来事に心が動き、ままたに会話をする子ども。その一瞬の出来事ができる力に、いつも笑顔をもらいホッと癒される。その子その子の物の見え方に少し近づける瞬間、これがまた楽しい。

真つすぐ伸びようとする強い心持つ「子ども先生」「一人の人」に関わりの中で毎日言われているようだ。「ありのままでいい。今足をとめ、感じたことを大切にしよう！」と。昨日のこと、明日のこと、困ったこと、悲しかったこと、嬉しかったこと、さてそれは一度おいておこう。
「今感じたことをどう表現するか、そしてどんな想像を今何しよう！」
そんなことを隣で真つすぐな表情で考えている尊い空間。子どもの強さと逞しさを感じる空間。

子どもは今の自分が感じていることが全て、大人は心で周りを考え自分を抑え、人の目を気にすることが多々ある。そんな邪心も何のその、素直な心で捉え、出来事を自ら学習していく子どもが輝く理由。もともとと自分の成長を信じ歩み続ける心の部分。そんな「子ども心の強さ」に感動をもらい、魅力的な存在に憧れる「子どもの可能性」に大人の観点は、邪魔でしかないのかも知れない。と生活や教育保育を通して自問自答する今がそこにある。

（中鶴田幼稚園 太田 千晴）